

**種の概要**

北海道、本州、四国、九州に広く分布し、河川汽水域や汽水湖の泥・砂泥底に生息する。多産水域においては漁獲され、食用に出荷されている。殻長30mm程度になる。殻表面は漆様の光沢のある黄褐色から黒色を呈し、幼貝時や産地によっては地色が淡く濃色の細い放射状線を有する。殻内面には真珠光沢がなく、白色や淡青色に彩色され、殻頂部に3個の主歯と両側に長い側歯を有する。雌雄異体で浮遊幼生期を有する。

**主要な選定理由**

人為性			生息環境の特殊性		学術性		
個体数激減	分布域に影響	営利目的捕獲	特殊生息環境	地域的孤立	分布が極限	分布の限界	希少
△			○				

**県内分布**

加古川市、高砂市、姫路市、たつの市、赤穂市、豊岡市、新温泉町、南あわじ市

**県内における生息状況及びその他特記事項**

BからCに変更。県内では15河川ほどで記録されており希少とは言えないが、各河川の汽水域の現状から判断して、何らかの啓発措置が必要とみなし、以前よりランクダウンさせたCランクで評価した。千種川や加古川、夢前川では本種に適した低塩分の汽水域が広く存在し、生息量も多いことから、シジミ掘りをする人の姿も見受けられる。一方で、中・小型河川の多くは生息地が局所的であることが多い。

**保護上の留意点**

海水が強く影響する河口端の汽水域は不適と考えられ、流程の長い汽水域あるいは淡水の湧水が生じる汽水域、潟湖などの存在が必要であることから、防潮堰の設置場所や浚渫により急深な海水域にしないことが望ましい。



写真提供：増田修



写真提供：増田修